

## 合同講義 受講生の質問・意見と教員からのコメント一覧

### 野家「人文系のための弁明」への質問・コメントへの回答

アポロギア

たくさん質問やコメントをいただきましたが、すでに会場でお答えしたのもいくつかありますし（「音楽はなぜ理科系か？」や「事実認識と価値判断の協働とは具体的にどういうことか？」など）、また花輪先生や座小田先生からお答えいただいた質問もあります。以下では、同じようなテーマの質問にまとめて回答することにいたします。

#### 【講義内容について】

質問1：ファストサイエンスとスローサイエンスの区別について

回答1：ファストサイエンスが自然科学、スローサイエンスが人文社会科学と必ずしも正確に対応しているわけではありません。自然科学にも天文学や素粒子論のようにすぐに生活に役立つわけではない基礎科学もありますし、人文社会科学にも心理学のように交通事故の防止や化粧品の開発などにすぐに役立つ分野もあります。ただ、一般に人文社会系の学問が結果を出すのに時間がかかり、効率性や有用性という観点からは「スロー」であることは事実です。講演で述べたかったのは、「ファスト」と「スロー」の価値の逆転です。スローフードには「地域の食材の持ち味を生かしてゆっくりと熟成させた自然食品」という意味が、スローライフには「スピードと成果に追われる従来の生活を見直し、自分らしい生活スタイルを見出す」という意味があります。それに対して、ファストフードだけを食べては栄養が偏りますし、ファストライフは過労死を招きます。私が主張したのは既成の価値観を転換する必要性であり、そのために果たす人文社会科学の役割の重要性です。実用性だけで学問を測ることはできませんし、その意味で「スロー」は決して欠点ではありません。ご参考までに、文化人類学者の辻信一さんが書いた『スロー・イズ・ビューティフル』（平凡社ライブラリー）を読むことをお勧めします。

質問2：理系の人間には「インサイダーでありかつアウトサイダーであること（サイド）」は難しいのでしょうか。

回答2：そんなことはありません。ただ「科学技術立国」といわれるように、理系の人間はどちらかといえばインサイダーの立ち位置に立ちやすいので、アウトサイダーの視点をもつためには、目先の成果や利益から一定の距離を置いて、自分の研究が社会の中でどういう意味や価値を持つのかを冷静に捉え直す必要があります。理系の学生には人文社会科学を基盤とする「社会文化リテラシー」が必要だと述べたのはそのような意味です。

質問3：既存の価値観に対する批判的な意見を誰かが言っても・・・結局専門家の間だけの閉じたお話になって、どこかに埋もれてしまうだけではないですか。

**回答 3 :** 既存の価値観に身を任せるのは楽な生き方ですので、そのような無力感があるのは理解できます。

しかし、東日本大震災と福島原発事故はわれわれの価値観を大きく揺さぶりましたし、私が学生時代を過ごした1960年代、つまり高度成長期の大量生産・大量消費の時代と比べれば、「大きいことはいいことだ」や「消費は美德」から「スモール・イズ・ビューティフル」や「地球にやさしい」への価値観の転換は信じられないほどのものがあります。たとえ小さくとも声を上げていくことが大切です。

**質問 4 :** 現代日本では自然科学は国益のためのものとして扱われているように思われる。どうすれば国が人文科学的な価値判断に基づいた政策を行うようになるだろうか。

**回答 4 :** たしかに政府が叫んでいる「イノベーション」は技術革新によって経済成長を目指すという短絡的な政策に聞こえます。しかし「イノベーション」とはもともとシュンペーターが唱えた経済学用語で、社会全体の価値観の転換を伴うものです。そのために必要なのは、人類社会全体の進むべき方向を見据えた歴史的展望と俯瞰的視点にほかなりません。それゆえ大学の役目は「科学技術リテラシー」と「社会文化リテラシー」の双方をバランスよく備えた人材を育成することだと私は考えています。

**質問 5 :** 人文知と科学知の棲み分けの部分で、パスカルは神を信じていたので自然科学は「悪意」があったとしていたが、神を信じない立場でもそうだろうか。

**回答 5 :** パスカルは宗教的信仰をも科学的に説明するような立場に「悪意」を感じたのだらうと思います。人間が古来尊重してきた価値には「真・善・美・聖」などがありますが、「真」は自然科学の領域だとしても、「善」「美」「聖」などの価値を科学的に説明して終りとするような科学主義的立場は、神を信じようと信じまいと、悪意とは言えないまでも短絡的だと思われます。

**質問 6 :** 人文系を学んだ人達は、そうでない人達に対して何をしてくれるのでしょうか？

**回答 6 :** J. F. ケネディの言葉ではありませんが、「他人が何をしてくれるかではなく、自分が何をできるのか」を考えることをお勧めします。たとえ理工系の学生であっても、人文知を学ぶことなしに「トランス・サイエンスの時代」である現代を生きていくことはできません。つまり、現在われわれが直面している人類的課題は「科学<なし>には解決できないが、科学<だけ>でも解決できない」問題ばかりだからです。さいわい東北大学は総合大学であり、人文社会科学を学ぶ機会にも大いに恵まれています。

## 【講義内容以外の質問】

**質問 A :** 文系的知識および思考、理系的知識および思考が大切なことはわかりました。教養とはどういうことでしょうか。

**回答 A :** これは今回のセミナー全体のテーマでもありましたが、教養とは「現代社会のなかでの自分の立ち位置を知ること」だと私は考えています。歴史的・社会的・文化的な立ち位置を知り、自分の現在位置を確認できる地図を描けてはじめて、次の行動への展望、今ここで何をなすべき

かが見えてくるからです。

**質問 B：**人文系の学問は「いつか役に立つ」から必要です、といった論が多く見受けられます。しかし「いつか」といった曖昧な点によって、説得力が欠けていると感じます。「いつか」に対して大きな説得力を持たせる話はありませんか？

**回答 B：**質問 A への回答でも述べましたが、教養とは自分の現在位置を知ることであり、その基盤になっているのは人文社会科学の学問です。それがなければ、日々のニュースを理解することすらできません。また皆さんが不十分ながら身に着けつつある「読む」と「書く」の能力は、古くから人文系の学問によって培われてきたものです。そのいみでは、人文系の学問は「いつか」ではなく「いま現在」役に立っています。

**質問 C：**教養の中に政治の知識も含まれると思われる。しかし、一般人が政治に参加できるのは、選挙のときだけである。ほとんど影響のないたかが一票を投じるために政治を学ぶ意味があるのか。

**回答 C：**たしかに「ほとんど影響のないたかが一票」の虚しさはよく理解できます。しかし、アメリカにトランプ大統領を誕生させ、イギリスに EU 脱退を選択させたのも「たかが一票」であることを忘れるべきではありません。現代社会の仕組みは複雑化しており、意思決定がいかになされるのかを知るためにも政治は現代人の不可欠の教養です。

**質問 D：**理学部物理学科から哲学科に移られた野家先生は哲学をなさる際、他の哲学者と異なる思考回路をたどっておられるのですか？

**回答 D：**現在では物理学は理科系、哲学は文科系と水と油のような関係にあります。ニュートンの時代までは物理学は自然哲学の一部であり、両者は共通の基盤の上になりました。したがって、自分の中では物理学から哲学に転向したことに余り違和感はありませんし、「他の哲学者と異なる思考回路」をもっているとも思いません。強いて言えば、理系出身なので他の文系出身の哲学者と比べて数式コンプレックスをもっていないことと、神秘主義的な哲学は敬遠する傾きがある、といったことでしょうか。

**質問 E：**大学の学費・授業料は以前よりはるかに高いと工藤先生がおっしゃっていましたが、それについて先生方はどう思われますか。

**回答 E：**私の学生時代は工藤先生と同様に月千円 (!) の授業料でしたので、たしかに現在の学費は高すぎると思います。本来なら、ヨーロッパの大学のように無償にするのが理想ですが、せめて奨学金と多少のアルバイトで賄える程度の額にすべきだと考えています。そのためには、フランスのように、まず学生が声を上げるのが重要です (私たちの頃は「学費値上げ反対闘争」なるものがありました)。

## 野家「人文系のための弁明（アポロギア）」への質問・コメント

## 講義内容について

|                      |   |   |
|----------------------|---|---|
| 回答済                  | C   | 音楽は何故理系なのでしょう。  |
|                      |   | 音楽がどうして理科系なのか、ぜひ知りたいです。また、人文社会系なものであるといえる文学作品などは市場価値に還元できるとはいえないのでしょうか。                           |
|                      |   | スライド7枚目の下から3行目に「音楽」が含まれている理由が知りたいです。音楽は完全に文系だと思っていましたので…。   |
|                      |   | 何故音楽は科学系に分類されるのか。   |
|                      |   | 音楽はなぜ科学系に分類されるのか。   |
|                      | M   | 自然科学との「棲み分け」と「協働」ということですが、具体的に教えて下さい。   |
|                      | N   | 事実認識と価値判断の協働で成果を上げた例はありますか？   |
|                      | O   | あまりにも極端な例ですが、仮に教員養成系学部を廃止するとなると、将来児童・学生に教育を行う、学問を教えるのはロボット・人工知能になるのでしょうか。効率性、有用性を求めすぎるのは危険な気がします。 |
|                      | P   | 理学と比べながら人文系の価値を採す必要ができた原因は、やはり「人文系がお金をもうけられないから」でしょうか。  |
| Q                    | 理学が教養を得るには文系が必要だとわかりました。しかし、文系が理系の教養としてあるなら専門としての文系学部は縮小してもよいのではないのでしょうか。それとも文系はそれ自体価値があるのでしょうか。  |   |
| 質問 1                 | ファストサイエンス・スローサイエンスのお話がありましたがお金がお金が分配される国立大学には実学系＝ファストサイエンスを重視させ、私立大学に文科系を極めてもらうという話を聞いたことがあるのですがどう思われますか。（歴史的にも国立大学は理系重視だったと聞いたことがあります。「国立大学」文系の必要性はあるのでしょうか…。）   |   |
|                      | 人文社会科学が「スローサイエンス」であり、じっくりと問うていかねばならぬことはとてもわかりました。しかし、いくらスローとはいえ、ようやく答えにたどり着いたころにはもう死の間際であるかもしれないことを考えると、私たち文系はそれだけのことを考える価値があるのでしょうか？もしかしたら死ぬまで答えが出せず、自分のやってきたことが無意味になるのではと思うと不安になります。                          |   |
|                      | 科学がファストサイエンスで、人文学がスローサイエンスなら科学を優先されるのは必然ではないのですか？スローという点は一見欠点に見えますが、美点であったりしますか？あるいは欠点であってもそれを補う美点が他にありますか？   |   |
|                      | スローサイエンス、ファストサイエンスという話がありましたがお金がお金が分配される国立大学には実学系＝ファストサイエンスを重視させ、私立大学に文科系を極めてもらうという話を聞いたことがあるのですがどう思われますか。（歴史的にも国立大学は理系重視だったと聞いたことがあります。「国立大学」文系の必要性はあるのでしょうか…。）  |   |
| 質問 2                 | サイドの引用に、「人文学者に求められるのは～インサイダーでありかつアウトサイダーであることだ」とありますが、理系の人間には「インサイダーでありかつアウトサイダーであること」は難しいのでしょうか。   |   |
| 質問 3                 | 既存の価値観に対する批判的な意見を誰かが言っても、多分世の中の大半の日とは自分の身に直接的な危険が訪れるまでそんなこと全く興味なくて、結局専門家の間だけの閉じたお話になって、どこかに埋もれてしまうだけではないですか。  |   |
| 質問 4                 | 自然科学は「役に立つ」物を産み、人文科学は「役に立つ」とは何かという価値判断を担うと述べていたが、現代日本においては自然科学は国益のためのものとして扱われているように思われ、人類全体の発展のためとして科学をとらえる意志が国に欠如していることから人文系の軽視という問題が生じているのは国の意志が自然科学的な価値判断に基づいていると感じられたがどうすれば国が人文科学的な価値判断に基づいた政策を行うようになるだろうか。 |   |
| 質問 5                 | 人文知と科学知の住み分けの部分で、パスカルは神を信じていたので自然科学は“悪意”があるとしていたが、神を信じない立場でもそうだろうか？   |   |
| 質問 6                 | 人文系を学んだ人達は、そうでない人達に対して何をしてくれるのでしょうか？  |   |
| 質問 A<br>※講義内容以外として回答 | 文系的知識及び思考、理系的知識及び思考が大切なことはわかりました。教養とはどういうことでしょうか。   |   |

| 講義内容以外について |  |  |
|------------|--|--|
| 回答済        | A  | 「ミッションの再定義」とありますが、具体的にはどのような区別があるのでしょうか？旧帝大に対しても、高校生は自分の学力に見合う大学に行くことが多く、大学を特色ではなく偏差値で判断していることが多いように思われます。今後そういった考えが改善されるのでしょうか？ |
|            | B  | もっと文科系の講義を取れるようにしてもいいと思います。今の段階でもキソゼミくらいなので。   |
| 質問 B       | 人文系の学問は「いつか役に立つ」から必要です、といった論が多く見受けられます。しかし、「いつか」といった曖昧な点によって、説得力が欠けていると感じます。「いつか」に対して大きな説得力を持たせる話はありませんか？                              |  |
| 質問 C       | 教養の中に政治の知識も含まれると思われる。しかし、一般人が政治に参加できるのは、選挙のときだけである。ほとんど影響のないたかが一票を投じるために政治を学ぶ意味はあるのか。  |  |
| 質問 D       | 佐藤優『読書の技法』東洋経済新報社の中に、鳩山元首相（スタンフォード大で学位取得）が偏微分の考えを応用し政治的決断をした（故に周囲に理解不能）とあります。理学部物理学科から哲学科に移られた野家先生は哲学をなさる際、他の哲学者と異なる思考回路をたどっておられるのですか？ |  |
| 質問 E       | 大学の学費・授業料は以前よりはるかに高いと工藤先生がおっしゃっていましたが、それについて先生方はどう思われますか。  |  |